

アドビ、国内のビジネスパーソンによる PDF ファイルと生成 AI の活用状況に関する調査結果を発表

PDF の生成 AI 機能で 8 割のビジネスパーソンが業務効率化を実感、法務部で活用が進む

【2025 年 6 月 12 日】

アドビ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：中井 陽子、以下アドビ）は本日、PDF ファイルの利用状況と生成 AI 機能の活用状況に関する調査結果を発表しました。本調査は、2 月に Adobe Acrobat に日本語版の生成 AI 機能「[Acrobat AI アシスタント](#)」が提供開始されたことをふまえて、PDF や生成 AI の活用状況などを調べるために、日常の業務で PDF ファイルを利用している日本国内のビジネスパーソン 700 名を対象に実施したものです。

今回の調査で明らかになった主な結果は以下の通りです。

PDF の利用状況について

- 全体の 6 割のビジネスパーソンが 10 ページ以上の長文 PDF を日常的に活用
- 全体の 7 割がビジネス文書から情報を探すのに苦労していると回答。職種別では、法務部門が最多の 9 割に達し、全体平均を大きく上回る

PDF の生成 AI 機能の活用について

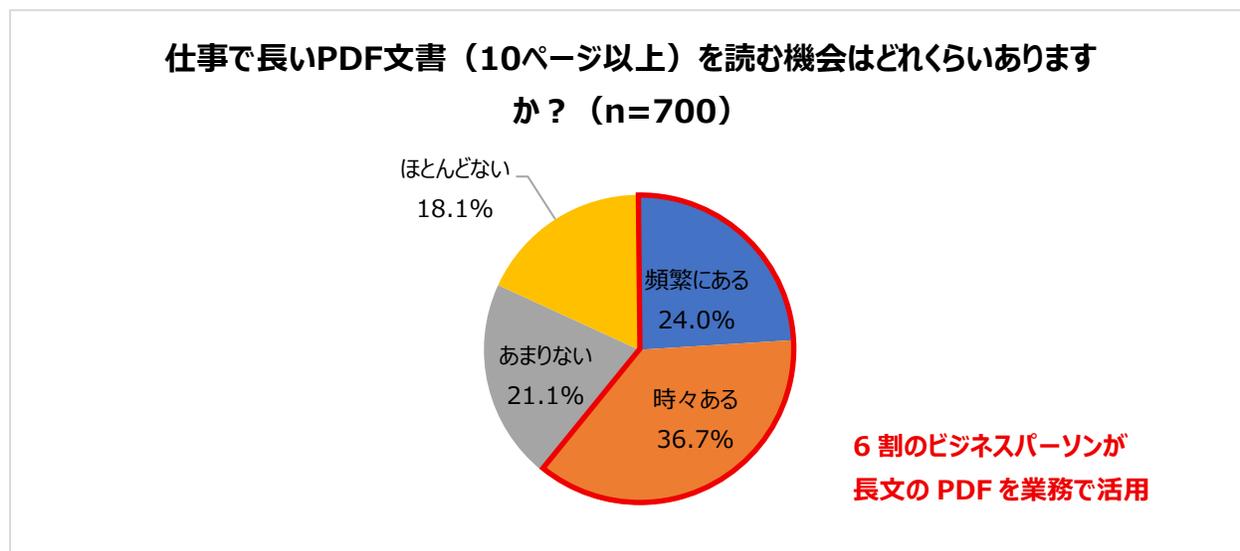
- PDF の「生成 AI 機能」利用率は全体の 4 割、利用ユーザーの 8 割が業務効率化を実感したと回答。職種別では法務部門の利用率が最多
- 生成 AI 機能の使用にあたっての懸念は、「AI の利用に関する社内ガイドラインの不在（36.1%）」、「情報の正確性（25.9%）」、「情報漏洩（24.6%）」

■ PDF の利用状況について

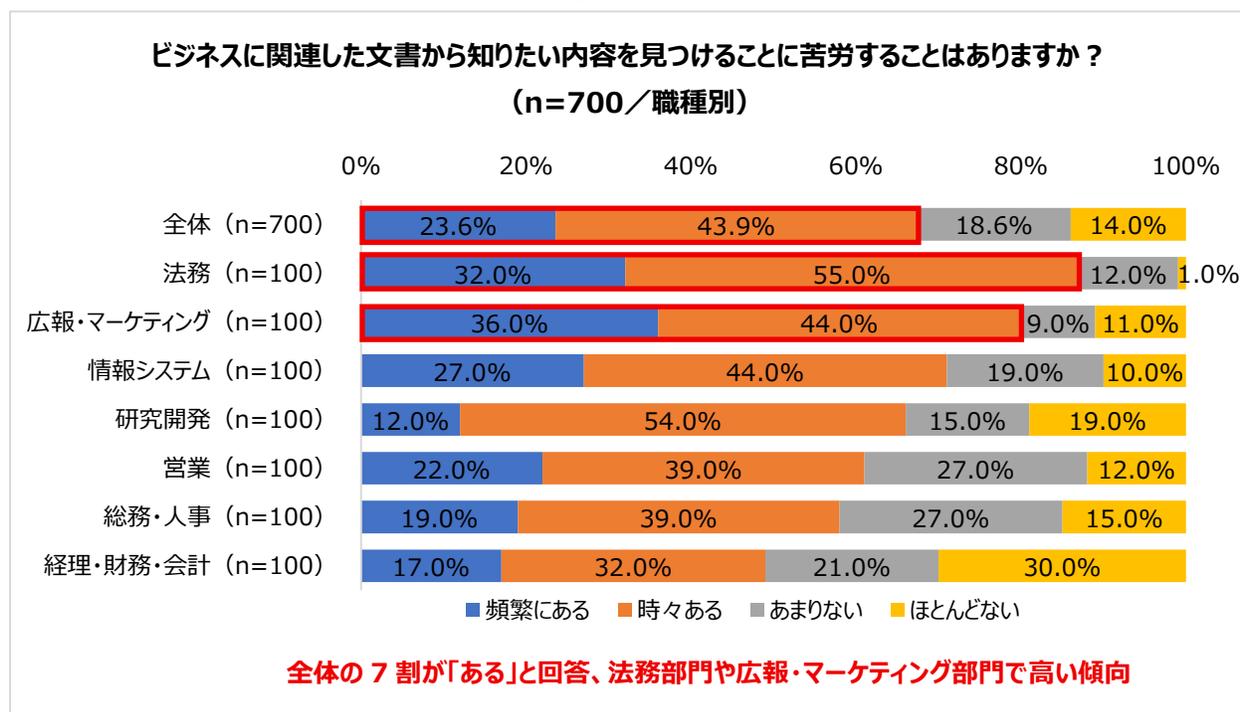
6 割が 10 ページ以上の長文 PDF を日常的に活用、情報検索の効率化に 7 割が課題

日常の業務における PDF 文書の活用実態について調査したところ、10 ページ以上の長い PDF 文書を読む機会が「頻繁にある」と回答した方が 24.0%にのぼり、「時々ある」と回答した 36.7%と合

わせると、全体の 60.7%のビジネスパーソンが長文の PDF を業務で活用していることが判明しました。



一方で、ビジネス文書から知りたい内容を見つけるのに苦労することが「頻繁にある（23.6%）」、「時々ある（43.9%）」と回答があり、全体の 67.5%が文書検索に課題を感じていることがわかりました。職種別でみると、法務部門では 87.0%（「頻繁にある」32.0%、「時々ある」55.0%）、広報・マーケティング部門では 80.0%（「頻繁にある」36.0%、「時々ある」44.0%）と、全体平均と比べ特に高い傾向が見られました。

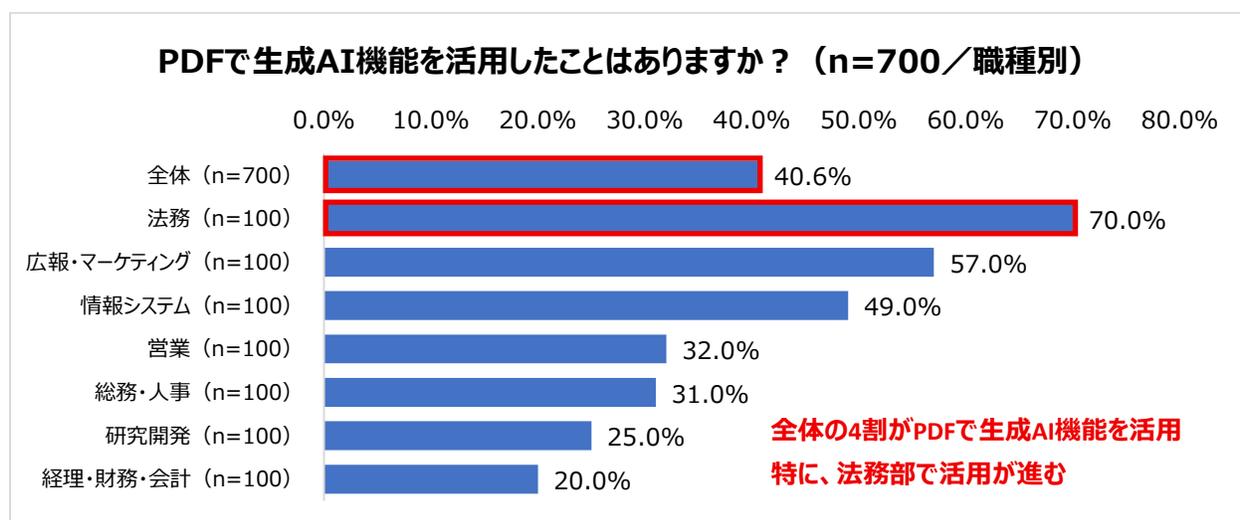


■ PDFの生成AI機能の活用について

PDFの生成AI機能活用者の8割が業務効率化を実感、法務部門などで活用が進む

PDFの生成AI機能を活用したことがあるか聞いたところ、全体の40.6%が活用したことがわかりました。

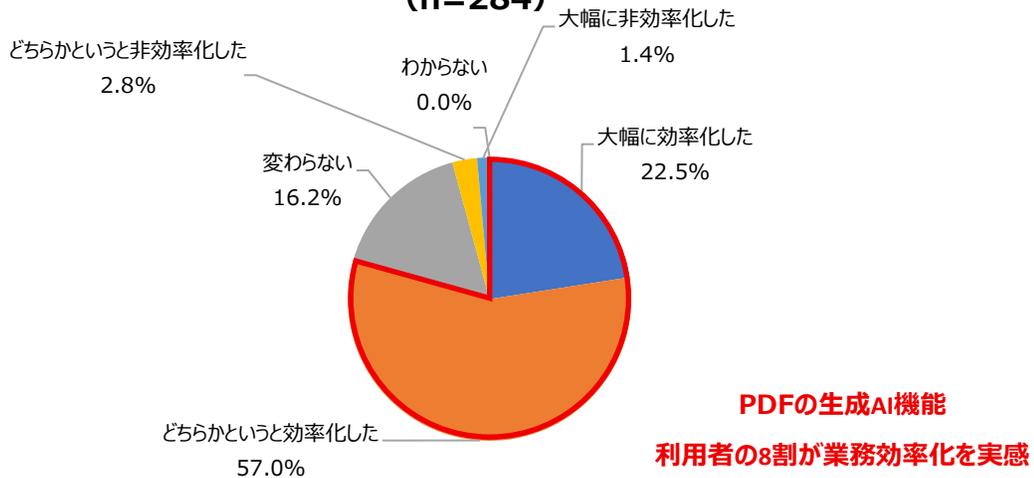
職種別の内訳をみると、法務部門が利用率70.0%と最も高く、全体平均（40.6%）を大きく上回る結果となりました。契約書の条項チェックや法的リスクの分析など、高度な専門知識を要する作業においても、AIによる要点整理が業務効率化に貢献していることが推測されます。続いて高い利用率を示したのは広報・マーケティング部門（57.0%）である一方、経理・財務・会計（20.0%）や研究開発（25.0%）では利用率が比較的低く、部門によって利用率に大きな差がみられました。



「PDFで生成AI機能を活用したことがある」と回答したビジネスパーソンに、生成AI機能の活用によって、業務がどのように変化したかを聞いたところ、「大幅に効率化した（22.5%）」、「どちらかという効率化した（57.0%）」で合わせて、8割（79.5%）が業務効率化を実感していることが明らかになりました。

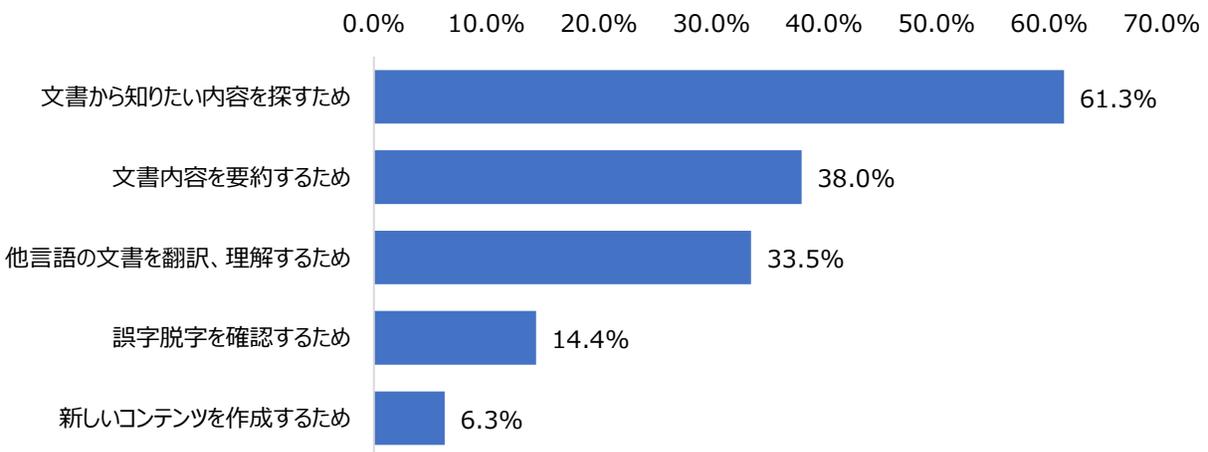
PDFで生成AI機能を活用することで業務がどのように変化しましたか？

(n=284)



また、生成 AI 機能の活用目的としては、「文書から知りたい内容を探すため」が 61.3%と最も多く、「文書内容を要約するため」が 38.0%と続きました。

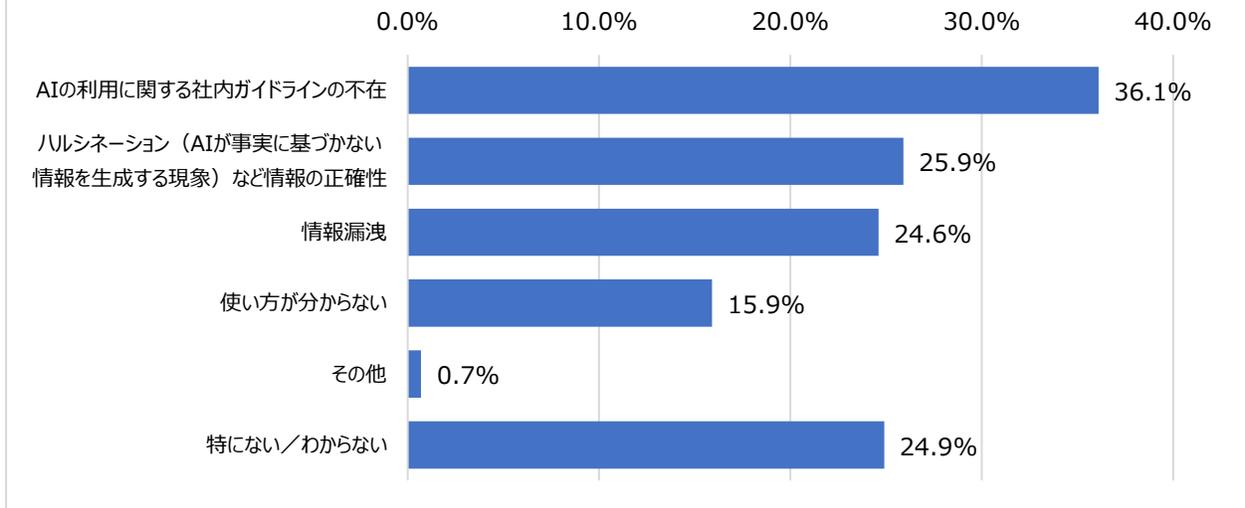
PDFで生成AI機能を活用する目的は何ですか？ (n=284)



生成 AI 活用の壁は「社内ガイドラインの不在」と「正確性」や「情報漏洩」への懸念

PDF の生成 AI 機能を使用することに対する懸念点について聞いたところ、全体の 75.1%が何らかの懸念を抱えていると回答しました。具体的には「AI の利用に関する社内ガイドラインの不在 (36.1%)」が最も多く、次いで「ハルシネーション (AI が事実に基づかない情報を生成する現象) など情報の正確性 (25.9%)」、「情報漏洩 (24.6%)」と続きました。

PDFの生成AI機能を使用することに対して、あなたが抱いている懸念点をお教えてください。(n=700)



アドビ株式会社マーケティング本部デジタルメディア ビジネスマーケティング執行役員 竹嶋 拓也は次のように述べています。

「今回の調査により、PDFの生成AI機能を活用したビジネスパーソンの8割が業務効率化を実感していることが明らかになりました。生成AI機能などの活用によって企業はPDFの『情報資産』から新たな価値を創出することが可能になります。Acrobat AI アシスタントは、指定された文書内の情報のみに基づいて回答することで、内容の正確性を担保し、さらにユーザーの文書から学習しない仕組みにより、正確性と情報保護を両立します。アドビは、信頼性の高いデジタルソリューションを通じて、企業の業務効率化や発展を支援してまいります。」

■調査概要

調査方法：インターネット調査

調査対象：700名（仕事でデスクワークを主とし、月に1回以上PDFファイルを扱っていると回答した20～59歳の全国のビジネスパーソン<7職種別に均等割付>）

調査期間：2025年5月1日～2025年5月8日

※構成比（%）は小数点第二位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

■「アドビ」について

アドビはデジタル体験を通じて世界に変革をもたらします。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2025 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.